

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7 11
府教育会館704号
(TEL)6765-8904
(FAX)6765-8905

第27回全国女性教職員学習交流集会

10月7日～8日、第27回全国女性教職員学習交流集会が、滋賀県の米原・彦根で開催され、大障教女性部から7人が参加しました。

世界は平和に向けて動き出している

全体会のオープニングを飾った八幡中学校生徒による和太鼓演奏は、会場を震わす圧迫しました。続いて、江戸時代から伝わる人形浄瑠璃、富田人形の上演がありました。

離ればなれとなった母子の再会と別離を描いた物語で、揺れ動く切ない母の気持ちが見事に表現されていました。

開会挨拶を行った竹中直子さん(全教女性部長)は、同窓会で再会した教員から、家の事情で自衛隊への入隊を決めたと聞き、殺し殺されるところにだけは行っちゃいけないと伝えると、平和の大切さを教えてくれたのは竹中先生だ」と答えてくれたことを紹介し、「私たちが全教で学ぶ意味はここにある」と訴えま

した。

基調報告を行った山本乃里子さん(全教女性部事務局長)は、めまぐるしく変わる国会情勢に触れ、政治を国民の手に取り戻そうと呼びかけました。そして、憲法9条を守り平和を求め続けることの大切さを強調し、核兵器禁止条約の採択など世界は平和に向けて動き出していると述べました。

教育をめぐる状況では、新学習指導要領が子どもと教職員に負担を押し付ける内容になっていること、「戦争する国」づくりがすすむ中で、自衛隊による教育への介入が強まっていることも紹介されました。さらに、全教が作成した「けんりのおはなし」ミニカーDの活用を広げるとりくみの呼びかけがありました。

子どもの声を聴き気持ちに近づく

記念講演は、別府悦子さん(中部学院大学教授)が、子どもの気持ちに寄り添って、豊かな発達を保障される教育とは、と題して行いました。始めに別府さんは、近江学園を設立した糸賀一雄さんが提起した発達保障の理念、子どもの心を世の光に紹介され、一人ひとりが、かけがえのない大事な存在であること、津久井やまゆり園事件を風化させてはならないこと、そして、戦

美しい夜景にも癒されて

夕食交流会では、各ブロックからの工夫を凝らした出し物が披露され、琵琶湖名産の料理に舌鼓を打ちました。そして、来年度の開催地、北九州へエールが送られました。

翌8日は、「戦争する国づくり」と自衛官募集、ねらわれる学校と子どもたち、いつも、いつまでもいきいきと暮らすために、心と体のいたわり方」という二つの基礎講座と、「特別支援教育は今...」、「しゃべり場」、「ジェンダーの視点で学校を」などの子ども大切にしたい学校づくり、「全国」パパママの会「全国交流会」の五つの分科

時中は優生思想が出てくることを挙げ、平和の大切さを訴えました。続いて、発達相談員やスクールカウンセラーとして関わってきた多くの事例を紹介しました。その事例を通じて、周りの大人が懐を広くして子どもの行動を受け止めること、問題行動を「わがまま」ではなく、「発達のつまり」と捉えること、子どもに「自分が自分であってほしい」という安心感や人への信頼感を与えることなど、子どもの声を聴き気持ちに近づく大切さについて語りました。

会に分かれて学習を深めました。集会后は、大教組女性部の企画したオプショナルツアーで、近江八幡の水郷めぐりと鯉料理を堪能し、ちょうど開催された八幡堀まつりの美しい灯籠の夜景に心癒されて帰路につきました。

参加者の感想です！

第1分会に参加しました。自衛隊の学校現場への入り込みが高校の進路選択だけでなく、小中学校の授業にも連携されている現状に驚きました。自衛隊そのものの否定ではなく、子どもたちに何を、どの様に伝えるのか、私たちがもっともっと話し合うべきところだと思います。

書記局のひとりごと

10月11日の午後5時半過ぎ、米軍普天間基地所属のヘリコプターが飛行中にエンジン火災を起こし、沖縄県東村高江の牧草地に墜落・炎上しました。機体は真っ黒に焼け焦げ、原形をとどめない無残な姿だったとのこと。事故現場は民家からわずか300mのところ。一歩間違えば大惨事となっていました。昨年12月に、名護市の海岸で普天間基地所属のオスプレイが墜落して、まだ1年も経っていません。米軍海兵隊のヘリやオスプレイの拠点になっている普天間基地の危険性が、改めて浮き彫りになりました。

現場を視察した翁長知事は、「日常の世界が一転してこういう恐ろしい状況になるといふことに違和感がある。悲しい、悔しい、そして怒りだ」と述べ、沖縄県にとって国難とは、こういった状況だ」と記者団に語りました。

沖縄県は、炎上したヘリコプターに放射性物質が使用されている可能性があるとして、事故現場の土壌採取を要請しましたが、米軍は立ち入りを拒否しています(10月13日現在)。公務中の事件・事故の第一次裁判権は米側にあるという日米地位協定が壁になり、日本側の捜査は拒否される可能性があります。

琉球新報が9月28日に発表した県民世論調査によると、普天間基地の「移設」先として「国外」への回答が34.8%、「移設せずに撤去」が24.3%、「県外」が21.1%という結果で、合わせて80.2%の人が辺野古への移設に反対しています。安倍内閣が米国とともに「唯一の解決策」としている辺野古新基地建設に対しても、沖縄県民は明確にNOの意思表示をしています。

原発事故から6年半、福島は今

日本母親大会大阪オプシヨン 福島ツアーに参加して

8月19日〜20日に岩手で開催された日本母親大会に続き、大阪母親連絡会が企画する福島バスツアーに参加しました。

今も立ち入り制限が

南相馬市市議会議員の渡部寛一さんのお話を聞きながら、南相馬市から双葉町、大熊町を巡りました。渡部さんは、震災4日後から行方不明者の捜索のため自衛隊を連れて被災地を回り、多くのご遺体を発見されました。中には生後10日の赤ちゃんもいたそうです。

南相馬市の原町区は原発から30km圏内で、20km圏内にあたる小高区は、今年の4月から居住制限が解除されました。福島第1原発のある双葉町と大熊町は、帰還困難区とされ今も立ち入りが厳しく制限されています。南北に走る高速道路と国道6号の2本の道路を自動車で行くことは認められており、徒歩はもちろん、バイクや自転車等で行くことはできません。国道6号に交わる道は、フェンスで全て封鎖されていました。木が隣に建つ家に覆いかぶさるように茂り、森に戻っていきそうに感じました。月日の長さ、ここに住んでいた方々の悲しみが伝わってくるようでした。



汚染物質が山積み

避難解除された南相馬市

では、震災から6年半経ちますが、若い人が戻ってきかないので、開店していない店が多く、病院も看護師が足りないそうです。バスで巡っていると、所々に仕分けされた瓦礫や、黒いフレコンバック(荷物を保管するための袋状の包材)が山のように積まれている場所がありました。汚染物質の仮置場で、本来は3年置いたら中間貯蔵施設に30年、その後最終貯蔵施設に移すはずですが、中間貯蔵施設の場所も確定しないまま、仮置場に置いたまま

静かにいなくなった自衛隊

また、「自衛隊は軍隊なのだ」と思っていたという話も聞きました。3月14日に南相馬市役所の屋上にいた自衛隊は、夜11時、静かにいなくなりました。50km圏内に「逃げる」の命令が出たからです。しかし、住民はもちろんな市役所内にいた職員にも何も告げないまま、大切なはずの無線機器も屋上に置きっぱなしにしたまま、あつという間の撤収

判断ができません。これは区長も同じで、小高区では安定ヨウ素剤を、全町民のために7日分購入していたにもかかわらず、区長が配布を判断できないまま避難指示が出て、配れないままに

たただで差し上げますよ」と冗談めかしておっしゃって

たただで差し上げますよ」と冗談めかしておっしゃって

でも2年に1回健診をすることになり、南相馬市民は毎年受けられるようになりました。かなりの数の人が「癌の疑いあり」と診断されています。

再稼働などあつてはならない

他にも、児童・教職員の全員が近くの丘に逃げて全員が助かった沿岸部に建つ請戸小学校や、老夫婦の住む家に津波が迫る中、体の動かない夫に叩かれてやむなく奥さんだけ軽トラで走って逃げ伸びたという場所なども案内していただきました。津波の恐ろしさを間近に感じました。

最後に渡部さんは、昨年度まで仮設校舎で授業を行っていた小高工業高校と商業

たツアーでした。

(女性部：前田綾)

分会紹介

分会名：生野支援学校分会

分会長：笹谷 忠

第9回

障害種別：知的

児童生徒数：312人

どんな分会？：細〜く、長〜くをモットー(?)に活動しています。

組合員数はあまり多くないので、大障教のソフトボール大会やバレーボール大会に参加したり、絵本講座(昨年度)を開いたりして、組合に少しでも親しみを持ってもらおうと取り組んでいます。仲間を増やして、細〜く、長〜くの生野分会を、みんなの頼りになる生野分会にしていきたいです。